



目次	
○令和3年度をふり返って	1
○令和4年度 研究の進め方	2
○事務局だより	4

第 5 4 号

令和3年度をふり返って

福島県中学校教育研究会技術・家庭科部長 福地 淳一



令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため前年度の研究を引き継ぎ、研究主題「技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や社会の中から主体的に問題を見出し、解決する力を育成するための指導はどうすればよいか」、第3年次副主題「学びの変容を実感できる評価の工夫」として、学びの必要性を実感し、能動的な学びへつながる評価の工夫、特に、ふり返り活動に重点を置いて研究を進めてきました。

5月の県主題研修会、10月7日の県北・相双大会は紙上開催となりましたが、県北・相双大会授業提供者の北信中学校朽木裕一先生、佐久間千恵先生の指導案、各支部の研究実践資料をまとめ、集録として配付しました。各支部、会員の皆様のご協力、誠にありがとうございました。

11月11日には全日中東京大会、11月19日には東北地区宮城・仙台市大会がオンラインで開催され、東北大会には県内の支部長様はじめ多くの会員の皆様にご参加いただきました。

1月22日（土）には第21回全国中学生創造ものづくり教育フェアがオンラインで開催され、創造アイデアロボットコンテストに本県から3チームが出場しました。今年は取組校が限られていたこと、新型コロナ対応のため県大会が開催できなかったことから、各支部に照会し、校内コンテストの結果から成績の良い順に県代表チームを選出しました。須賀川市立第二中学校が基礎部門と応用・発展部門にそれぞれ1チーム、福島市立吾妻中学校が計測・制御部門で1チーム出場しま

した。須賀川市立第二中学校を福島県会場としてお借りし、支部長様はじめ関係の皆様は役員・審判として参集いただき、なんとか運営することができました。深く感謝いたします。

2月22日には支部長会議を初めてオンラインで開催しました。限られた時間、人数でしたが、画面を通して顔を見ながら、リアルタイムで伝え合うことができました。

このように、令和3年度はコロナ禍の閉塞した状況を打破し、まさに「オンライン元年」とも言うべき可能性の一つを示した1年であったと感じています。もちろんオンラインですべてが解決できるわけではありませんが、今回の例をよい機会として「働き方改革」の視点からも、会議の整理などが進むものと期待します。

令和4年度から研究主題が変わります。研究主題は、「生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか」、1年次の副主題は「生活や社会の中から課題を見出し、見通しを持って解決しようとする課題設定の工夫」です。生徒の実態を把握して、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにして、生徒が見通しを持って主体的に取り組み、深い学びへつながる課題設定の工夫について研究することとなります。子どもたち自身が興味・関心を持って課題を見出し、意欲的に課題解決できる授業を構築していただきますようお願いいたします。

また、「持続可能な技術・家庭科の構築」も喫緊の課題として考えていかななくてはなりません。

令和4年度 研究の進め方

1 令和3年度の研究の成果と課題

(1) 成果

技術分野

ア 内容ごとの評価規準の作成

- 学習指導要領の4観点が3観点に変更されたことに伴い、改めて評価規準表を作成することで、見直しをはかることができた。

イ 学力の3要素を意識したふり返りの場を設定した授業の研究

- 生徒の成長・変容を明らかにする評価の研究を通し、学びの必要性を実感し能動的な学びにつなげることを意識した授業実践ができた。
- 学びの3要素に応じたふり返りの場の設定によって、今までの学びを個や集団でふり返り、自分の成長や変容を確認することができた。それにより自信をもって学ぶことができた。

家庭分野

ア 内容ごとの評価規準の作成

- それぞれの内容に関して評価規準を改めて見直すことにより、子どもに得させたい資質・能力を見つめ直し、評価に基づいた視点で授業を再構成することができた。

イ 学力の3要素を意識したふり返りの場を設定した授業の研究

- 学びの変容を実感できる評価の工夫を行うとともに、ふり返りの場を意識的に設けることで変容を見取り、評価に結び付けることができた。
- 地域の問題を見いだして課題解決に取り組むことで、自分の生活が地域との関わりで成り立っていること、自分も家庭生活や地域を支える一員だと気付かせることができた。

(2) 課題

技術分野

- 生徒自身が学びの変容を実感するためには、現在の学びの状態を把握させる必要がある。1単位時間や題材毎にふり返りと評価を習慣化して行わせることで自らの学びの状態を確認させていく。
- 変容をとらえる場合に、どのような視点で変容を見るか、可視化するかによって生徒の進む方向が変わりやすい。
- 評価の集約などが瞬時にできたり、記録を画像や動画で残すことができたりするタブレット端末を効果的に活用した授業の展開について研究を進めていく必要がある
- 会員の構成人員が年々減少しており、研究推進や集約等、支部としての活動が困難になっている。会員個人の負担も大きく、活動支部としての再構築が急務と考える。

家庭分野

- 主題研修会や報告会が中止で紙面になったことで、事前の研究内容の共通理解がうまく図れなかった。
- 題材の評価規準を学習活動に則して具体化することが必要である。観点にあった投げかけ方になっているか、評価規準は妥当かを、これまで以上に研究していかなければならない。
- コロナ禍の状況下での地域体験活動等は、今まで通りというわけにはいかない。オンラインによる体験や取材など、できる範囲での学びを考えていく必要がある。
- 親の仕事状況により家事を家族で協力しながら行っている家庭など、生徒の生活経験が浮き彫りになった。今後は、できない(やっていない)家事にも関心を向けさせ、取り組めるように指導する必要がある。

2 研究主題・副主題

研究主題		研究主題設定の趣旨
生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか		子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが求められている。生活の中から問題を見だし課題を設定し、見通しを持ってそれを解決したり、生活を工夫し創造したりする資質・能力の育成を目指す。
研究副主題		研究推進の概要（内容・方法）
令和4年度	生活や社会の中から課題を見出し、見通しを持って解決しようとする課題設定の工夫	生徒の実態を把握し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにした上で、生徒が見通しを持ってより主体的に取り組み、深い学びへつながる課題設定の工夫について研究する。
令和5年度	主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫	他者と対話や協働をする中で、見通しを持って課題解決に取り組み、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する場面を設定したりすることで、自己の考えを広げ深めることができる展開の工夫を追究したい。
令和6年度	よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫	ふり返し活動は、学習をふり返し、学びを定着させるために大変重要な意味を持つ学習活動である。学びを深めるために、ふり返し活動をとおして、学びの中における生徒の成長・変容を明らかにする方法について研究する。

※ 詳しくは、(別紙)「令和4年度 研究の進め方について」をご覧ください。

事務局だより

本年度は、コロナ禍の中での県大会の紙上開催や東北大会、全国大会のオンラインによる開催など、令和2年度のほとんどのものが中止された状況から大きな進歩がありました。できることをできる範囲で行う、「ポストコロナ」の視点も見えてきたと感じています。

全国大会は You Tube による授業配信が行われ、公開授業の技術分野では、「地域や社会の要求に応えるモビリティの開発」という題材で、問題解決的な学習として進歩的な提案がありました。生活や社会の中から地域に関する問題をエネルギー変換の技術によって解決すること主眼として、自動車モデルの設計・製作を通して、2つの評価要素の最適化を行ったうえで、最終的に地域に関する問題を踏まえた社会の要求に応えるモビリティを設計・製作し、提案するものでした。

家庭科では、「健康・快適・安全で持続可能なよりよい住生活に向けて」という題材で、生活に密着した今日的課題を解決すべく、子どもたちも自ら課題意識をもって解決しようとする仕掛けがたくさんありました。

かつての「技術・家庭科は、何を作るの?」という教材中心の考え方から「技術・家庭科では何を考えていくの?」という主体的・対話的で深い学びを展開していくことになりました。「ものづくりを学ぶ」だけでなく、「ものづくりから学ぶ」がさらに強調されたものです。

今まで遠く離れた場所での実践は、記録や文献で学ぶか、現地に出向かなければ直接的に学ぶことができませんでしたが、オンラインにより世界中の情報を自分のいる場所である程度は得ることができるようになりました。今後、大会や研修会等にも積極的に参加いただければと思います。

令和4年度の各大会日程は次のとおりです。現地開催の予定ですが、オンライン開催等の変更の可能性もあります。

- 県研究協議会 会津大会
10月6日(木) 会津若松市立第五中学校
- 東北大会
10月7日(金) 青森県青森市立浪打中学校
福島県発表
第1分科会(材料と加工の技術)
第5分科会(家族・家庭生活)
- 全国大会
11月17日(木)、18日(金)
栃木県小山市立文化センター 他

◎ お知らせ

文部科学省 初等中等教育局 視学官
教育課程課 情報教育振興室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官

上野 耕史先生が、令和4年3月に定年退職となります。2004年に栃木県教育委員会義務教育課指導主事から文部科学省に入局し、18年間、技術教育のトップとしてリードしていただきました。これまでの上野先生のご功績・ご指導に深く感謝するとともに、慰労の意を表します。長い間ありがとうございました。今後もお元気にお過ごしになり、また違った形でご指導いただければと思います。

福島県中学校教育研究会技術・家庭科部報第54号
発行責任者：福地 淳一(福島市立清水中学校)
編集責任者：中教研技・家部会事務局 広報部
